

病害虫発生予報 第6号

(向こう1か月間の発生予報)

I 総括表

| 作物名 | 病害虫名 | 地域 | 発生量(平年比) | 発生時期 | 備考 |
|-------------|-------------|----|----------|-------|----|
| 水 稲 | 穂いもち | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | 紋枯病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | 白葉枯病 | 全域 | やや少 | 並 | |
| | ツマグロヨコバイ | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | セジロウンカ | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | カメムシ類(斑点米) | 全域 | やや多 | 並 | |
| 大 豆 | 子実害虫類 | 全域 | やや多 | 並 | |
| りんご | 褐斑病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 黒星病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 斑点落葉病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 腐らん病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 輪紋病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 炭疽病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | すす点病・すす斑病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | キンモンホソガ | 全域 | 並 | 並 | |
| | スモモヒメシンクイ | 全域 | 並～やや多 | 並～やや早 | |
| | ハダニ類 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| な し | リンゴコカクモンハマキ | 全域 | 並 | 並 | |
| | うどんこ病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 黒斑病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | クワコナカイガラムシ | 全域 | 並 | 並 | |
| | カメムシ類 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | シンクイムシ類 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| リンゴコカクモンハマキ | 全域 | 並 | 並 | | |

| | | | | | | |
|----------------|--------------------|-------|-------|-------|---|--|
| も も | せん孔細菌病 | 全域 | 並 | 並 | | |
| | コスカシバ | 全域 | 並 | 並 | | |
| ぶどう | べと病 | 全域 | 並 | 並 | | |
| | 黒とう病 | 全域 | 並 | 並 | | |
| かき | うどんこ病 | 全域 | 並 | 並 | | |
| | 炭疽病 | 全域 | 並 | 並 | | |
| | 円星落葉病 | 全域 | 並 | 並 | | |
| | カキクダアザミウマ | 全域 | 並 | 並 | | |
| | カキノヘタムシガ | 全域 | 並 | 並 | | |
| | ハマキムシ類 | 全域 | 並 | 並 | | |
| トマト | フジコナカイガラムシ | 全域 | 並～やや多 | 並 | | |
| | 疫病 | 全域 | 並 | 並 | | |
| | 灰色かび病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | | |
| | 輪紋病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | | |
| | きゅうり | 斑点細菌病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | | べと病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| うどんこ病 | | 全域 | 並 | 並 | | |
| 炭疽病 | | 全域 | 並 | 並 | | |
| 果菜類(きゅうり、トマト等) | 褐斑病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | | |
| | ウイルス性病害 | 全域 | 並 | 並 | | |
| | アザミウマ類 | 全域 | やや多 | 並 | | |
| アブラナ科野菜 | アブラムシ類 | 全域 | 並 | 並 | | |
| | 黒斑細菌病 | 全域 | やや多 | 並 | | |
| | 軟腐病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | | |
| | 黒腐病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | | |
| はくさい | コナガ | 全域 | 並 | 並 | | |
| | ピシウム腐敗病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | | |
| | べと病 | 全域 | 並 | 並 | | |
| レタス | べと病・菌核病・灰色かび病・すそ枯病 | 全域 | やや多 | 並 | | |
| | 斑点細菌病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | | |
| | 軟腐病・腐敗病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | | |

| | | | | |
|-------------|---------|----|-------|---|
| アスパカス | 茎枯病 | 全域 | 並～やや多 | 並 |
| | 斑点病 | 全域 | 並 | 並 |
| ねぎ | 黒斑病・葉枯病 | 全域 | やや多～多 | 並 |
| | べと病 | 全域 | 並 | 並 |
| 野菜・花き 共通 | オオタバコガ | 全域 | 並～やや多 | 並 |
| | ヨトウガ類 | 全域 | 並～やや多 | 並 |
| | ハモグリバエ類 | 全域 | 並～やや多 | 並 |
| | アブラムシ類 | 全域 | 並 | 並 |
| | アザミウマ類 | 全域 | やや多 | 並 |
| | ハダニ類 | 全域 | 並～やや多 | 並 |

※発生時期の空欄は、発生時期の関係ないものや常時発生ものを示す。
 ※地域指定がある場合は、その地域以外は、発生量、発生時期とも「並」を示す。

II 向こう1か月の天候の見通し及び予報の根拠にかかる気象要因

1 向こう1か月の天候の見通し（気象庁 令和6年9月19日発表）

○関東甲信地方【9月21日～10月20日】

暖かい空気に覆れやすいため、向こう1か月の気温は高く、平年と比べ曇りや雨が多くなる見込み。

○関東甲信地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の見通し

| 区分 | 見通し | 予想される出現確率(%) | | |
|------|-----|--------------|-----|--------|
| | | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
| 平均気温 | 高い | 10 | 10 | 80 |
| 降水量 | 多い | 20 | 30 | 50 |
| 日照時間 | 少ない | 50 | 30 | 20 |

2 予報の根拠にかかる気象要因

(+)は発生を増加させる要因、(-)は発生を減少させる要因を示す。

III 水稲

1 穂いもち

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
 農薬はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

(2) 予報の根拠

- ①9月上旬の巡回調査では、発生地点率は全般に平年と比べやや高かった。
- ②9月上旬の巡回調査では、被害率は南信地域、中信地域は平年と比べやや高い～高かった。
- ③常習発生地等では、多発ほ場が確認されている。

(3) 防除上の留意点

発生しているほ場からは、自家採種を行わない。

2 紋枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①9月上旬の巡回調査では、発病被害度は東信地域、北信地域は平年と比べ高かった。
- ②常習発生地等では、上位葉鞘へ進展が確認されている。

3 白葉枯病

(1) 予報の内容 発生量：やや少 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①9月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
 - ②巡回調査では、台風等により浸冠水したほ場はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①常習発生地では、発生に注意する。
 - ②台風等の浸冠水が発生を助長する。

4 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①9月上旬の巡回調査では、成虫の発生は全般に平年並であったが、発生地点率は平年と比べやや高かった。
 - ②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると想定される。
- (3) 防除上の留意点
 収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

5 セジロウンカ

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①9月上旬のすくい取り調査(本田ネット20回振)では、平均捕獲頭数は全般に平年と比べ並～やや少なかったが、発生地点率は全般に平年と比べ高かった。
 - ②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると想定される。
- (3) 防除上の留意点
 収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

6 斑点米カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 9月上旬のすくい取り調査では、捕獲頭数は全般に平年と比べやや多かった。
 - ② 気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると想定される。
- (3) 防除上の留意点
収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

IV 大豆

1 子実害虫類（マメシクイガ、シロイチモジマダラメイガ、カメムシ類）

- (1) 予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 9月中旬の巡回調査では、全般に食葉性チョウ目幼虫の被害が平年と比べやや多く確認されている。
 - ② 気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると想定される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 防除適期は子実肥大初期であるが、発生が多い場合は7～10日間隔で追加防除する。なお、9月の気温が高めで推移すると、収穫期間近まで被害が発生する場合がありますので、必要に応じて9月下旬頃まで防除を行う。
 - ② 吸実性カメムシ類の生息密度は、畑の外縁部ほど高い傾向があるので、外縁部への散布は丁寧に行う。
 - ③ マメシクイガは移動性が低く、前年に発生が多かった連作畑では被害が発生しやすいので注意する。
 - ④ 収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

V りんご

1 褐斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、南信地域で発病葉がみられたが、発生量は平年並である。
- (3) 防除上の留意点
- ① 「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」（以下「県防除基準」という。）を参照し、定期的に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ② 前年に発生が多かったほ場、現時点で発生がみられるほ場では、収穫期までの発生状況に留意するとともに、発病葉等は適切に処分する。

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農薬はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

2 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
巡回調査ほ場では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ① 秋季に発生がみられる場合があるので、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ② 薬剤耐性菌のまん延防止のため、殺菌剤の選択においては農業農村支援センター、JAなどの指導を受けること。

3 斑点落葉病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
巡回調査ほ場では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

4 腐らん病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、県下各地で発生がみられたものの、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ① 夏場は病斑の拡大が一時停止するが、今後の降雨により胞子が飛散し、翌年以降の発生につながるため、園内の点検に努め、早期発見・治療に努める。
 - ② 病斑の削り取り後は、農薬登録のある塗布剤で必ず処理する。
 - ③ 発生の多いほ場では、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

5 輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 巡回調査では、北信地域の一部のほ場で発生がみられたものの、発生量は平年並であった。
 - ② 越冬伝染源量は平年並とみられる。

6 炭疽病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、南信地域の一部のほ場で発生がみられたものの、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、薬液が十分かかるように定期的に防除する。
 - ②突発的な降雨が続くと予想される場合は、散布間隔を10日程度に縮める。
 - ③気温が高く、降雨によって濡れ時間が長いと、二次感染が増加するので注意する。
 - ④病斑上に形成された分生胞子は第二次伝染源となるので、発病果は見つけ次第除去し、土中に埋めるなど適正に処理する。

7 すず点病・すず斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかったものの、周辺ほ場での発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ②降雨が多い場合は、9月下旬まで防除する。ただし、薬液の選択に当たっては、品種の収穫期と薬剤の使用時期に注意する。

8 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、県下各地で寄生葉（マイン）がみられたが、発生量は平年並であった。
 - ②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる第3世代成虫の誘殺頭数はやや少ない。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

9 スモモヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並～やや早い**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、北信地域の一部のほ場で、シンクイムシ類による果実被害がみられた。
 - ②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる第3世代成虫の誘殺頭数は、平年と比べやや多く、発生時期も早い。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農薬はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

10 ハダニ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、県下各地でナミハダニ、リングハダニの寄生がみられ、一部のは場では多発傾向であった。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ②殺ダニ剤の散布前に、徒長枝切りや枝吊りを行い、手散布やSSの縦横走行散布等によって、樹幹内部まで薬液が十分かかるようにする。

11 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、幼虫による新梢被害、被害果実はみられなかった。
 - ②須坂市（果樹試験場、病害虫防除所）のフェロモントラップの誘殺頭数は、9月第3半月まで誘殺されなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ②葉が果実に接していると、接触部の果面が食害されることがあるため、早めに摘葉を行う。

VI なし

1 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、南信地域で発生がみられたものの、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

2 黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査ほ場では、発生はみられなかったものの、周辺ほ場での発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

3 クワコナカイガラムシ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査ほ場では、発生はみられなかったものの、周辺ほ場での発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①発生が目立つ園では、9月中にバンド誘殺を行う。
 - ②「県防除基準」を参照し、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準等を遵守して防除する。

4 カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、クサギカメムシは平年並であり、チャバネアオカメムシは平年と比べ多かった。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。
- (3) 防除上の留意点
- ①本年は発生量が多いため、収穫前の園地では飛来状況をこまめに確認する。特に、山際で飛来が多い園地では、気温が高まると多くなる傾向がある。
 - ②定期的に園内を観察し、カメムシ類を発見した場合はカメムシ類に登録のある薬剤を散布する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ③合成ピレスロイド剤は、「県防除基準」の指定地域以外では使用しない。

5 シンクイムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①高森町（南信農業試験場）のナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺頭数は、やや多かった。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。
- (3) 防除上の留意点
- ①多発園や産卵のピーク時は、間隔をあけすぎないように「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②今後、気温が高く推移した場合、晩生種で被害が多くなる傾向があるので、最終防除時期が早くなりすぎないように注意する。

6 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査ほ場では、寄生はみられなかったものの、周辺ほ場での発生量は平年並であった。

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農薬はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

Ⅶ もも

1 せん孔細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、中信地域の一部のほ場で果実への発病がみられたものの、周辺ほ場での発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①晩生種の果実や枝葉への感染は見つけ次第、必ず取り除き、適切に処分等を行う。
 - ②「県防除基準」を参照し、発生ほ場では収穫後の防除を必ず実施する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ③台風の襲来など強風と降雨により感染量が増えるので、気象情報にも注意する。

2 コスカシバ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①成虫の発生盛期は、8月中旬～9月中旬である。
 - ②発生園では、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

Ⅷ ぶどう

1 べと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査ほ場では、県下各地で発病がみられたものの、周辺ほ場での発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、葉の保護のために収穫後に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

2 黒とう病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査ほ場では、北信地域の一部のほ場で茎葉に発病がみられたものの、周辺ほ場での発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

①発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、茎葉の保護のために収穫後に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

②発生が多かったほ場では、巻きひげ等が翌年への伝染源にもなるので、適切に必ず処理する。

Ⅸ か き

1 うどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査ほ場では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

2 炭疽病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査ほ場では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

②降雨前に重点的に防除する。

3 円星落葉病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査ほ場では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

②散布むらがないように、丁寧に防除する。

4 カキクダアザミウマ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査ほ場では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

5 カキノヘタムシガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査ほ場では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

6 ハマキムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査ほ場では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

7 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査ほ場では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並であった。

②高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ多かった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

X 野菜

1 トマト疫病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
直近の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①多湿条件で発生しやすいので、適正なかん水や換気等に努め、排水を良好にする。
 - ②「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ③薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

2 トマト灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①多湿条件で発生しやすいので、過度の密植は避け、適正なかん水や換気等によって施設内の湿度低下に努める。
 - ②開花後の花卉から発病しやすいので、咲き終わった花卉の除去に努める。
 - ③「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ④薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

3 トマト輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①8月下旬まで発生の多いほ場がみられた。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温が高く、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①露地栽培では、気温が高く、降水量が多いと多発する。
 - ②被害茎葉が次作の伝染源となるので、ほ場外で適切に処分する。
 - ③「県防除基準」を参照し、防除する。

4 キュウリ斑点細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
直近の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかった。

- (3) 防除上の留意点
- ①発病後の防除は困難であるので、「県防除基準」を参照し、予防防除を基本とする。
 - ②被害の甚だしい葉及び果実は除去する。

5 キュウリべと病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、北信地域の施設栽培、露地栽培で発生がみられた。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①下葉で発病の著しいものは摘葉する。
 - ②降雨や灌水により、地表面からの水のはね上がりによって伝染することが多いので、ポリマルチ、敷わら等によって水滴のはね上りを防ぐ。
 - ③発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。

6 キュウリうどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
直近の巡回調査では、北信地域の施設栽培のほ場で発生がみられたが、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、7～10日間隔で防除する。その後は発生状況に応じて適宜に防除する。
 - ②多発生してからは防除困難となるので、発病初期からの防除に努める。

7 キュウリ炭疽病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、北信地域の露地栽培で発生がみられたが、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①例年、露地栽培の生育後半での発生が多い。
 - ②病害が多発した葉は早めに除去する。
 - ③窒素過剰は発病を助長するので、施肥量に注意する。

8 キュウリ褐斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、北信地域の露地栽培で発生がみられた。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温が高く、降水量が多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①本病は、露地栽培後半の高温多雨条件で発生が多い。
 - ②発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ③ハウス栽培では高温多湿を防ぎ、多発葉は除去する。
 - ④窒素過剰は発病を助長するので、施肥量に注意する。

9 果菜類（きゅうり、トマト等）のウイルス性病害

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
直近の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①発病株は直ちに除去して処分する。
 - ②感染植物を吸汁したアザミウマ類及びアブラムシ類の吸汁により、健全な植物に伝染する。（アザミウマ類及びアブラムシ類の防除については、次項10及び11の項を参照。）
 - ③汁液伝染する恐れがあるので、畝ごとに使用するハサミを替えるなどして、汚染されたハサミにより、ほ場全体に拡がらないように注意する。

10 果菜類（きゅうり、トマト等）のアザミウマ類

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①直近の巡回調査では、東信地域のいちご（施設栽培）、中信地域のきゅうり（施設栽培）で寄生がみられた。
 - ②4地点（上田市、富士見町、塩尻市、長野市）に設置した青色粘着トラップによる調査では、8月の誘殺頭数は、全般的に平年と比べ多かった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②施設栽培で、日中の気温上昇により側窓を解放する場合は、防虫ネットの設置等により、飛び込みを防ぐ。

11 果菜類（きゅうり、トマト等）のアブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
黄色粘着トラップによる調査では、8月の誘殺頭数は、6地点中1地点（富士見町）で多く、2地点（塩尻市宗賀、塩尻市洗馬）で少なく、3地点で（上田市、小諸市、長野市）でほぼ平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②露地栽培では、高温となる夏は減少する傾向があるが、施設栽培では1年中発生する。
 - ③施設栽培で、日中の気温上昇により側窓を解放する場合は、防虫ネットを設置するなどし、飛び込みを防ぐ。

12 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①直近の巡回調査では、東信地域のブロッコリーのほ場、中信地域のキャベツのほ場で発生がやや多かった。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①降雨が多いと多発する。
 - ②育苗時の発生に注意し、発病苗とその周辺の苗は定植に用いない。
 - ③発生ほ場の被害茎葉は、土壌中の病原菌密度が増加するのですき込まない。
 - ④「県防除基準」を参照し、防除する。

13 アブラナ科野菜の軟腐病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①直近の巡回調査では、中信地域のキャベツ及びはくさいの一部のほ場で発生がみられた。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②高温多湿条件で多発する。

14 アブラナ科野菜の黒腐病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
①直近の巡回調査では、東信地域のブロッコリーの一部ほ場、北信地域のキャベツで発生がみられた。
②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温が高く、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
①予防散布を基本として、「県防除基準」を参照し、防除する。
②過湿、過乾、高温期、肥料切れの場合に発生しやすい。
③雷雨など、強い降雨で作物が傷むと細菌性病害が発生しやすい。

15 アブラナ科野菜のコナガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
フェロモントラップによる8月の誘殺頭数は、6地点中2地点（上田市、原村）で多く、1地点（小諸市）で少なく、3地点（塩尻市、朝日村、長野市）で平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、防除する。
②薬剤感受性の低下を起こしやすいので、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

16 ハクサイピシウム腐敗病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
①巡回調査では、東信地域の多くのほ場で発生がみられた。
②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
①高温期は軟腐病を併発しやすいので、軟腐病の防除も行う。
②「県防除基準」を参照し、防除する。
③降雨が多いと多発する。

17 ハクサイべと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
直近の巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
①本病に感受性の高い品種の作付けは避ける。
②定植直後から定期的に予防散布を実施する。
③「県防除基準」を参照し、防除する。
④低温多湿条件のときに発生が多い。

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農業はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

18 レタスべと病・菌核病・灰色かび病・すそ枯病

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
①直近の巡回調査では、東信地域、北信地域で、すそ枯病の発生がみられ、発生量はやや多かった。
②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、防除する。

19 レタス斑点細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
①直近の巡回調査では、東信地域、中信地域の一部のほ場で発生がみられ、発生量はやや多かった。
②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、防除する。
②降雨が多いと多発する。

20 レタス軟腐病・腐敗病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
①直近の巡回調査では、中信地域の一部のほ場で発生がやや多かった。
②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温が高く、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、降雨前あるいは降雨後すみやかに防除を行う。
②常発地・多発地では、排水対策を行う。
③高温多雨条件で多発する。

21 アスパラガス茎枯病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①直近の巡回調査では、北信地域の一部のほ場を除き、発生がみられ、発生量はやや多かった。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①「雨除け」をすると、茎枯病の予防効果が高い。
 - ②降雨時の泥はね等によって感染しやすいので、土寄せや敷きワラ等で泥はねを防ぐ。
 - ③病茎は早期に刈り取り、ほ場外へ持ち出し、穴を掘って埋めるなどの適切に処分する。
 - ④降雨が多いと多発する。

22 アスパラガス斑点病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①直近の巡回調査では、北信地域の一部のほ場のみ発生がみられた。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①通風をよくするために立茎数を制限し、徒長倒伏しないよう上部を刈取る。
 - ②降雨が多いと多発する。
 - ③定期的な防除を実施し、散布間隔が大きくあきすぎないようにする。また、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
 - ④「県防除基準」を参照し、防除する。

23 ねぎの黒斑病・葉枯病

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多い～多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①直近の巡回調査では、南信地域、中信地域の全ての調査ほど、黒斑病の発生がみられ、発生量は多かった。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①被害葉は、2次感染源となるのでほ場内に放置しない。
 - ②降雨が多いと多発する。
 - ③「県防除基準」を参照し、防除する。

24 ねぎのべと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①直近の巡回調査では、発生はみられなかった。
 - ②気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、降水量が多く、日照時間は少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①降雨が多いと多発するので、ほ場の排水対策を行う。
 - ②「県防除基準」を参照し、防除する。

25 オオタバコガ（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①直近の巡回調査では、東信地域のキャベツの一部ほ場、北信地域のアスパラガスの一部ほ場で寄生がみられた。
 - ②各地に設置されたフェロモントラップによる調査では、8月の誘殺頭数が多い地域（小諸市、御代田町、茅野市、阿南町、松本市、塩尻市、中野市、飯山市など）がある。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②結球野菜では、結球始期に重点的に防除する。
 - ③薬剤感受性の低下を起こしやすいので、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

26 ヨトウガ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- 直近の巡回調査では、寄生は確認されなかったが、各地に設置されたフェロモントラップへの8月の誘殺頭数は、ヨトウガの多い地域（茅野市、原村、塩尻市）、ハスモンヨトウの多い地域（塩尻市、須坂市）、シロイチモジヨトウの多い地域（塩尻市）がある。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。

27 ハモグリバエ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、東信地域のトマト（露地栽培）、南信地域のセルリー、ねぎ、中信地域のねぎ、北信地域のトマト（施設栽培）、きゅうり（施設栽培、露地栽培）で寄生がみられ、平年と比べやや多かった。

(3) 防除上の留意点

- ① 苗床での防除を徹底する。
- ② 育苗施設では粘着トラップを設置し、成虫を捕殺する。
- ③ 「県防除基準」を参照し、防除する。
- ④ 収穫後は、残さの処分を徹底する。

28 アブラムシ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップによる調査では、8月の誘殺頭数は、6地点中1地点（富士見町）で多く、2地点（塩尻市宗賀、塩尻市洗馬）で少なく、3地点で（上田市、小諸市、長野市）ではほぼ平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

29 アザミウマ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 直近の巡回調査では、東信地域のいちご（施設栽培）、アスパラガス（露地栽培）、南信地域のアスパラガス（雨よけ栽培）、中信地域のきゅうり（施設栽培）、アスパラガス（露地栽培）、北信のアスパラガス（露地栽培）で寄生がみられた。

② 4地点（上田市、富士見町、塩尻市、長野市）に設置した青色粘着トラップによる調査では、8月の誘殺頭数は、全般的に平年と比べ多かった。

(3) 防除上の留意点

- ① 育苗期又は定植時の防除が有効である。
- ② 早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。
- ③ アザミウマの種類によって、薬剤に対する感受性が異なるので、防除を実施後に効果を確認し、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
- ④ ほ場周辺の雑草に寄生し、野菜畑に飛び込む場合があるので、雑草防除等のほ場管理を行う。

30 ハダニ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 直近の巡回調査では、東信地域のいちご（施設栽培）、南信地域のアスパラガス（雨よけ栽培）、北信地域のアスパラガス（露地栽培）の一部ほ場で寄生がみられた。

② 例年、盛夏期以降に多発する。

③ 気象要因（+）

向こう1か月の気象予報では、気温が高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

① 早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

② 同一系統・同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

③ 施設栽培等で、乾燥状態が続くと多発しやすい。